

一つの夢を叶え、伝えるために遺志を継ぐ。
心臓カテーテル治療を日本、そして世界に広めたい。



◀日本語がわからず適切な治療が受けられない外国人の助けになりたい、という許さん。ハートセンターでは、英語、中国語、台湾語、韓国語での診察や相談が可能だという。

草津ハートセンター院長 **許 永勝**さん

■お父様の仕事の関係で小学生のとき日本に移住してこられたそうですね。医者になるために台湾に戻りましたが、医者になろうと思ったきっかけは？

父の考え方の影響が大きいですね。両親は台湾が日本の植民地だった頃に生まれ育ったので、日本語は台湾語と同じぐらいネイティブのように話せます。ですから来日しても言葉の面では不自由はなかったのですが、やはり外国人という意識はあり、就職時に同じ能力の人なら外国人より日本人を採用するだろう、それなら独立性のある職業を持った方がいいと考えていました。その父の教えに従って長男は税理士、次男は医者、三番目の姉は裁判所の通訳、そして末っ子の私も医者の道を選んだのです。

■台湾での大学生生活はどうでしたか？

中国語は小学生までしか勉強していなかったので、片言に近い状態でした。ですからいきなり大学レベルの難しい漢文を読まないといけないことがとても辛かったです。また小さい頃に家族全員で日本に移住したので台湾には親戚とも親しくなく、あまり頼る人がいなかったもので生活に慣れるまでは大変でした。でも台湾語が出来るので、友達づくりはそれほど難しくなかったですね。もし台湾でなくアメリカに留学していたら、辛さのあまりくじけていたかもしれません(笑)

●プロフィール●

1956年台湾生まれ。11歳の時、父親の仕事の関係で神戸に移住。中学生まで神戸の中華同文学校で学んだ後日本の高校へ進学。1976年、医師を志して台湾に戻り中国医薬大学で学ぶ。卒業後は京都大学付属病院で研修医を経て、1985年より滋賀県立成人病センターに勤務。ここで故玉井秀男医師と出会い、先端医療である心臓カテーテル治療に研鑽することになる。2006年3月、専門医療を目指して玉井医師とともに「草津ハートセンター」を設立。3年後に他界された玉井医師の遺志を継いで院長・理事長を務めている。

■大学卒業後日本で働くことにしたのは、やはり家族が日本に住んでいるからですか？

そうですね。もともと日本に移住したのは、蒋介石が中国共産党との内戦に敗れて台湾へ来たあと、知識層を弾圧するなど情勢がとても悪くなったという経緯があったんです。医者になるために台湾に戻ったのは、学費が安かったという事情もありましたが、このまま台湾で医者になるよりも、華僑として外に出て移住した目的を達成する方に気持ちが動いたからです。

■専門の心臓カテーテル治療の道に進んだきっかけは？

京都大学の付属病院で研修を終えたあと、たまたま滋賀県の県立成人病センターで働くことになりました。ここで、先進医療の心臓カテーテル治療法に取り組んでいた玉井秀男先生に出会ったんです。実は私は医学の勉強の中で心臓が一番苦手だったんですよ。学生だった当時は今のような検査機器もなく、聴診器をあてて音で病状を判断するしかありませんでした。「この心音には雑音がある」と教授は言うのですが私にはさっぱり分からず、苦手意識があったんですね。そこでコンプレックスを克服しようと循環器科を志望したところ、玉井先生と組んでカテーテル治療に取り組んでいくことになりました。

■そして20年間成人病センターで勤務されたあと、玉井先生と一緒に「草津ハートセンター」を設立されたのです。どんな目的があったのですか？

公立病院よりも専門性を高め、コンパクトなチームを作って最先端医療に取り組んでいこうと「草津ハートセンター」を設立しました。玉井先生には、この場所を業界全体のカテーテル治療を発展させていくための拠点にするという夢もあったんで

す。一つの夢を叶えるのに、一人の力だけでは無理なんですね。叶えて、それを伝える人がいなければいけない。残念ながら彼は3年前に不治の病で他界され、私が院長を引き継ぐことになりました。私は仕事を始めてから20年余り彼と一緒に、彼の技術や思いを知る唯一の人物といっても過言ではありません。ですから何とかしてそれを伝える責任があると思っています。

■具体的に始めておられることはありますか？

滋賀県の循環器医療は日本だけでなく世界にも名前の通るレベルの高さを誇っています。実は日本のこの分野で中国語を話せるのは私を含めごく少数だけなんですよ。ですから、日本だけでなく世界、とくに中国語圏にもこの技術を提供していこうと、ハートセンターが休みの週末は、近隣の台湾や中国に出かけて技術交流をしています。医療分野での交流や技術の橋渡しが現在進行形の仕事ですね。ハートセンターの大屋先生は韓国語ができるので、日中韓の連携も可能です。今後は職員がもっとインターナショナルになれるといいなと思っています。

■世界へ出ていこうという先生の滋賀の印象は？

とても落ち着く所で大好きです。東京にいる友達は『東京にはチャンスがある』と言うのですが、チャンスをつかむには人との交流に時間を使う必要がある。でも私はむしろ考える時間が大切だと思うんです。量より質の医療を目指す私にとって、滋賀は質が高められる場所、そして患者さん一人ひとりを大切にできる場所だと思っています。

※心臓カテーテル治療：狭くなったり詰まったりした冠動脈にカテーテルという細い管を挿入して広げる治療法。